

第8回埼玉スポーツ医学セミナー

『私の歩んだスポーツ医学 - 外傷・障害の治療から予防へ -』

早稲田大学スポーツ科学学術院 福林 徹

(有明医療大学 : 4月より赴任予定)

東京大学医学部を卒業し、整形外科医になってより40余年がすぎた。その間、筑波大学整形外科、東京大学総合文化研究科、そして早稲田大学スポーツ科学学術院の道を進んでいる。若い頃は膝関節外科医になろうと志し、TKA、脛骨高位骨切術等の手術に立ち会った。しかしその中でも膝関節鏡の検査、および手術には一番興味をひかれた。当時関節鏡の創始者である、渡辺正毅先生の手ほどきを受け、積極的に膝関節鏡を行った。東大の関連病院として関東労災病院を廻り、ここで中嶋寛之先生と出会った。先生のご指導でスポーツ界に入っていった。近くに読売サッカークラブがあり、このチームドクターをしているうちに、読売サッカークラブは日本一となり、カズ、北澤、ラモスなど多くの代表選手を出した。小生もその関係でサッカー日本代表ドクターとなり、1998年のフランスワールドカップに帯同した。日本代表が本大会に出場できた久しぶりの大会であった。そこで小生は帯同ドクターとしての限界を感じるとともに、とある選手がいったように、「ドクターは治療だけでなく予防をしなければならない」ことを痛感した。

おりしも2002年IOCの総会で当時のJacques Ragge会長はinjury preventionの重要性をとい、そして2005年初のWorld Congress of Injury Preventionの学会がOsloで開かれた。小生はその学会に出席しPreventionの重要性をさとった。特にFIFAを代表してこられたJiri Dvorak先生とは親密になった。彼はサッカー選手に対しての障害・外傷予防プログラムFIFA 11+を発表し、これを全世界に広めようとしている所であった。大畠、青木両教授の後をうけて日本サッカー協会の医事委員長に就任させていただいた小生は、JiriおよびMario両先生にお越しいただき、積極的に日本での普及活動を行った。それと同時に日本体育協会と組み、他競技にたいしてもPreventionの重要性を説き、予防活動の活性化を計った。また所属の大学院生に対しては、その科学的有用性を明らかにする研究を行うようお願いした。

まだ時半ばではあるが、スポーツ界におけるInjury Preventionの重要性は認識されつつあると思われる。 **From Injury Care to Injury Prevention**

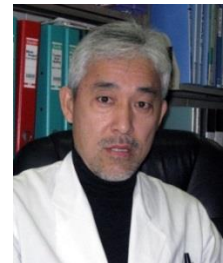
略歴

所属・職	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授	
ふりがな 氏名(生年月日)	ふくばやし とおる 福林 徹 (昭和21年11月29日生(69歳))	
学 歴		
昭和40年4月1日 " 47年3月31日	東京大学教養学部理科二類入学 東京大学医学部医学科卒業	
学 位		
平成6年7月31日博士(医学) (筑波大学)		
本 務 歴 ・ 役 職 歴		
昭和47年4月1日 " 48年1月1日 " 54年7月1日 " 55年7月1日 " 57年8月1日 " 61年8月1日 平成8年4月1日 " 13年4月1日 " 16年4月1日 " 18年9月16日 " 16年8月1日 " 19年6月19日	医員 助手 研究生 助手 講師 助教授 教 授 教 授 教 授 (客員教授 (名誉教授	東京大学医学部整形外科学教室入局 東京大学付属病院整形外科 The Hospital for Special Surgery (USA) 東京大学付属病院整形外科 筑波大学臨床医学系整形外科 筑波大学臨床医学系 東京大学大学院総合文化研究科 同身体運動科学教室主任 早稲田大学スポーツ科学学術院 同スポーツ科学部スポーツ医科学科主任 東京女子医科大学東医療センター) 東京大学総合文化研究科)
学 会 活 動 (役 職)		
<p>日本学術会議連携委員 (平成18年9月~)</p> <p>日本整形外科学会代議員 (平成15年5月~平成17年5月)</p> <p>日本臨床スポーツ医学会会長 (平成18年11月3日)</p> <p>日本臨床スポーツ医学会理事・総務委員長(平成11年11月~平成27年11月)</p> <p>日本整形外科スポーツ医学会理事 (平成16年6月~平成27年6月)</p> <p>日本体力医学会評議員 (平成6年~)</p> <p>日本バイオマテリアル学会評議員 (平成4年~)</p> <p>日本関節鏡学会評議員 (平成15年~)</p> <p>日本関節リウマチ外科学会評議員 (平成16年10月~)</p> <p>日本フットボール学会理事 (平成15年4月~)</p> <p>ISAKOS Orthopaedic Sports Medicine Committee member (2005/4~)</p> <p>Osthopaedic Research Society (USA) active member (1981~)</p> <p>SICOT active member (1986~)</p> <p>ISL & T senior member(2004~)</p>		
主 な 受 賞 歴		
平成3年 平成19年 平成24年 平成27年 平成28年	<p>東京大学整形外科学会同窓会賞受賞</p> <p>ISAKOSにて John Joyce Award を受賞</p> <p>福林徹 (日本サッカー協会男女ナショナルチーム医科学サポートグループ (代表) 第14回秩父の宮記念スポーツ医・科学賞 奨励賞を受賞</p> <p>第14回秩父の宮記念スポーツ医・科学賞 功労賞を受賞</p> <p>日本整形外科学会功労賞</p>	

これからのスポーツ医学 ― 一切らずに治す：保存療法の可能性を再考する ―

奈良県立医科大学 スポーツ医学講座 熊井 司

アスリートの運動器障害治療においては、スポーツ現場への早期復帰・完全復帰と同時に再発の予防が最も要求される。近年、積極的な保存療法としての各種低侵襲治療法が注目されるようになってきており、その中でも、超音波装置を活用したより正確な病変部位への局所注入療法（ヒアルロン酸や PRP）や体外衝撃波治療といった新たな手法が徐々に拡大しつつある。また、障害の発生要因や病態を正確に把握したうえでの理学療法的アプローチにより、障害再発予防へと導くことができるはずである。こういった新しい保存療法についての情報を整理し、予防の可能性についても再考する。



熊井 司（くまい つかさ）

生年月日：昭和 35 年 4 月 2 日 大阪生まれ

略 歴

- 昭和 61 年 3 月 奈良県立医科大学卒業
- 昭和 61 年 4 月 奈良県立医科大学 整形外科学教室入局
国家公務員共済組合連合会 大手前病院 など関連病院に出向
- 平成 9 年 1 月 奈良県立奈良病院（整形外科医長）
- 平成 14 年 4 月 阪奈中央病院（整形外科部長）
- 平成 16 年 7 月 奈良県立医科大学 整形外科 助手
- 平成 18 年 4 月 奈良県立医科大学 整形外科 講師
- 平成 18 年 12 月 福建医科大学（中華人民共和国）客員教授 現在に至る
- 平成 25 年 4 月 奈良県立医科大学 スポーツ医学講座 教授 現在に至る
（平成 29 年 4 月 1 日 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授就任予定）

留学歴

- 平成 12 年 1 月～14 年 3 月
英国ウェールズ大学 Musculoskeletal Biology and Sports Medicine Research Lab.
ドイツ：ミュンヘン大学 解剖学教室
- 平成 17 年 3 月 タイ：Chiang Mai 大学 整形外科学および解剖学 派遣研究員

学術・社会活動

（所属学会）

日本整形外科学会、JOSKAS（評議員）、日本整形外科スポーツ医学会（理事、代議員）、日本

足の外科学会（評議員、教育研修委員長）、日本臨床スポーツ医学会（評議員）、日本肘関節学会、日本最小侵襲整形外科学会（評議員、2012年第18回開催）、中部日本整形外科・災害外科学会（評議員）米国足の外科学会、国際足の外科学会 など

（社会活動）

日本オリンピック委員会（JOC）強化スタッフ（医・科学）

シマノレーシング（自転車ロードレース、UCI コンチネンタル・チーム） チームドクター

柏レイソル（Jリーグ） チームドクター

日本バレーボール協会 メディカル委員会委員

専 門

スポーツ医学、足の外科学（特に鏡視下手術）、腱・靭帯付着部症の研究